看護師の情報ニーズと情報探索行動

－慈恵医大医学部看護学科平成 12 年度卒業生を対象にしたアンケート調査－

武藤桃子（東京慈恵会医科大学附属病院看護部）
阿部信一（東京慈恵会医科大学医学情報センター）

背景：看護師の情報ニーズに関する最近の調査には，米国のニューヨーク州の専門看護師を対象に行ったアンケート調査やノースカロライナ州の臨床看護師を対象にしたものなどがある。それらによれば、看護師が最も必要としていたのは日常のケアに関連する薬物治療やその他の治療法・診断法に関するものであり、そのための情報源は専門医や同僚，個人のファイルなどであり，MEDLINE や病院図書室を利用することは少ないことが示されている。また、看護学生に対する情報探索方法の授業の効果に関する調査研究もいくつか報告があり、有意な差が認められている。

目的及び方法：東京慈恵会医科大学医学部看護学科では 3 年次前期に情報科学の講義と実習を行っている。今回，平成 12 年度の卒業生(6 期生)34 名全員を対象に，現在どのような情報ニーズを持ち，どのように解決しているのかを明らかにし，今後の授業や卒業生へのサービスを改善するために，郵送によるアンケート調査を行った。

結果：回答が得られたのは 34 人中 20 人(回収率 58.8%)だった。看護関係情報が必要になるときは「看護・診療のため」とするものが 70%で最も多かった。看護関係情報を得るメディアは「雑誌」が最も多かった。看護関係情報を実際に入手する手段は「インターネット」が最も多くの回答を得た。看護関係情報を入手するときに困ることは「的確な情報が得られない」とする回答が最も多くを占めた。日常入手できる看護関係情報に関する満足度は「どちらとも言えない」(20%)を挟んで満足と不満が分かれた。看護関係情報の入手に便利なのは「身近にある利用可能な図書館」が最も多かった。

考察：卒業生の多くは，看護や診療のためと自分の専門分野の最新情報を得るために，雑誌論文や学会・研修会，インターネットを利用して情報を収集している。しかし，実際の情報の入手方法の面は，大学病院に勤務するものは所属先や母校の図書館を活用しているが，大学以外の病院等に勤務しているものはインターネットをはじめ様々な方法と情報源を活用して，必要な情報を入手していると考えられる。また，文献データベースや雑誌論文の利用に費用と時間をかけている方が日常入手している看護関係情報に対する満足度は高いと思われた。

結論：看護関係情報を必要とする目的は欧米とほぼ同様で，看護・診療のためや専門分野の最新情報を得るためが多かった。しかし，大学病院勤務では図書館の利用が高いのに対し，大学以外の病院や保健所に勤務する場合ではインターネットや知人・同僚から情報を入手することが多く，結果として後者の方がより欧米と同様の傾向を示した。今後は，臨床経験年数による変化や実習内容による違いなど，さらに調査研究が必要と思われる。